

すずらん通信

Vol.56
令和6年
3月31日
発行

不登校相談会

2月3日、神奈川県立総合教育センター（藤沢）にて行われました。総勢142名、108組の方が来場され、131件の相談がありました。鈴蘭学園のブースにも5組ほど相談に来られました。藤沢で行われましたが、鈴蘭学園のブースに来られた方は皆さん相模原市の方でした。過去15年間、不登校相談会を相模原以外で開催した時には、相模原の方はほとんどいませんでした。今回は5組すべてが相模原市の方だったのが、不登校の多さや親御さんの真剣さを感じました。（中村 鳴美）

大学の先生による取材

2月28日、立命館大学経済学部准教授の先生が、わざわざ滋賀県から、鈴蘭学園の事を知ってインタビューに来てくれました。お話しした内容は、鈴蘭学園の生い立ちと今後の展開についての話が中心となりました。先生は、「不登校の子どもとフリースクール」というフリースクールの運営の実際と理論に関する本を出版されており、2冊目？の出版を期待しています。遠路はるばる鈴蘭学園まで来ていただきありがとうございます。（中村 鳴美）

ボランティア育成研修

3月13日、昨年に引き続き、桜木町の神奈川県立青少年センターにて毎年行われている、ボランティア育成研修に講師として招かれました。このボランティア研修も歴史が長く、13年くらいは続いているのではないのでしょうか。鈴蘭学園では、かれこれ10年程度はボランティア研修に受け入れ先などでかかわっており、講師としては2年目となります。今回の講義では、中村が初めてパワーポイントを活用して、実際のボランティア活動などを通しての鈴蘭学園とのかかわり方を話しました。ボランティアを目指している皆さんが、リラックスして聞いてくれたのが何よりも嬉しかったです。ボランティアをする時は、楽しんでやって下さいね。（中村 鳴美）

親の会報告

3月10日（日）、鈴蘭学園にて親の会が開催されました。当日は9組の保護者の方々が出席され、夫婦で出席された方も居りました。

最初に中村理事長よりご挨拶の後、自己紹介を兼ねて利用している子どもの今までの経緯や現在の状況を織り交ぜながら5～10分程度話す形を取りました。なぜ、うちの子どもが不登校になったのか、こちら（親）側が干渉し過ぎたのかもしれない・・・

等々。話している中で、涙ぐむ保護者の方も居ました。これは親の会を毎回開催している中で起こる事で、自身の状況を他の保護者さんへ向けて話す中で、皆でそれらを共有し、カタルシス（＝浄化）しているのかもしれない。

それぞれ話していく中で、「子どもは鈴蘭学園を居場所としている」、「本人なりに鈴蘭学園をリラックスの場として使っているのかもしれない」、「学校とはちがう人間関係を作っているのが良い」という事を話される保護者の方が多く感じられました。このような事を話されている時の保護者の方の表情は皆、ホッとした表情というのか、嬉しい表情で話されているのが印象的でした。

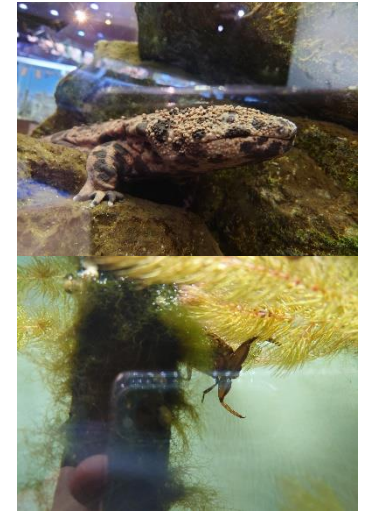
会の開始時点では皆さん、緊張した感じでしたが、各自自己紹介を行っていく中で緊張が解れてきたようで、後半になると活発にやり取りをしていました。中には、それぞれの連絡先を交換している保護者の方も居り、場を設定した側としては嬉しい限りです。

鈴蘭学園は子どもたちの居場所であり、かつ保護者の皆さま（又は大人）にとっても居場所の一つになり得るのだということを考えさせられる良い機会でありました。（桑原 和也）

お楽しみ会ふれあい科学館

2月16日、お楽しみ会で相模川ふれあい科学館へ行きました。地元へ昔からある小さな市営の水族館で、子どもたちの中にも行った経験のある人が何人かいるようでした。

小さいながらも展示はしっかりしており、タガメやオオサンショウウオなど大変貴重な生き物を間近で見学できました。



また、水槽に直接手を入れて魚のエサやり体験ができるコーナーがあり、子どもたちは大騒ぎしながらエサをあげていました。私もコイとウグイにエサを与えましたが、もっちり感のある口で力強く吸引されるような感覚でした。痛くはないのですがちょっと不安を感じる感触でもあります。

あつという間に見学は終わってしまいましたが、お土産コーナーで精巧なカエルの模型を手に入れるなど見学以外にも大変充実した時間になりました。（菅原 雅史）



卒園記念週間

3月最後の一週間は卒園記念週間として
います。賑やかなご飯を食べて新たな門出
を迎える子どもたちをお祝します。すべ
ての子どもたちが上手にコミュニケーショ
ンを図れるわけではないので、せめて雰
囲気だけでも感じてもらうために一人ず
つピザを用意して食べてもらいます。な
んとなく特別な雰囲気を感じてもらえ
ればOKです。実感が全然わかなか
くても、いつか自分が送られる立場に
なったときに、これまでのことを振り
返るきっかけにできればと思います。
(菅原 雅史)



リリーベル活動報告

3月も末となり、卒業式並びに終業式
と別れと新しい出会いの準備を迎える
シーズンとなりました。鈴蘭学園及びリ
リーベルをご利用の皆様にあたりまし
ても、進級進学・卒業おめでとうござ
います。皆様の新しい生活によき出会
いと学びある幸多き日々であることを
願っております。

2月・3月の活動の中心となったのは
3月16日(土)の「寺フェス」でした。
「寺フェス」は町田市にある「龍澤山
祥雲寺」というJR横浜線と小田急線が
乗り入れる「町田駅」から徒歩で15
分ほどの

閑静な住宅街の一角にある寺で行う催
しものです。リリーベルでは、「寺フェ
ス」のフリーマーケットに小学生と中
学生が中心となったブースと、高校
生が中心となったブースの2つのブ
ースで出店しました。お店の看板や商
品名などは子どもたちに作ってもら
い、とても賑やかなお店にすることが
できました。



お店の様子

小学生ブースの様子

フリーマーケットでは小学生と中
学生が中心となったブースでは、棒
くじと手作り品販売、飲料水販売
(ラムネ・緑茶・スポーツドリンク)、
高校生ブースでは、お菓子くじと
ヨーヨー釣りを行いました。手作
り品販売については、2月から3
月の中旬にかけてスタッフと子ども
たちで協力してアイロンビーズや
レジン等で商品を作っていました。

お店の店番もスタッフと子ども
で行いました。子どもたちも積極
的に声を出していて、店番とい
うことに楽しそうな様子も見ら
れました。また、3月17日は3
月にしては暑いこともあって、
ラムネはものすごく売れました。
また、小学生ブースの棒くじや
高校生ブースのお菓子くじも人
気がありました。

このように、皆様のご協力もあ
って、寺

フェスは無事に終わることができ
ました。利用者の皆様、子ども
たちには感謝しております。あ
りがとうございました。



手作り品の商品

今年度も一年があつという間に過
ぎました。来年度もリリーベルは
子どもたちに寄り添い過ごしやす
い空間と『やすらぎ』の場である
ことを願って、職員一同頑張っ
てまいります。来年度もよろし
くお願いいたします。(貞清 裕介)



高校生ブースの様子



お菓子くじ

中村の二つの涙した話

1つ目は、中学3年間を鈴蘭学園で過
ごし、その後高校・大学と進学し、
たまにボランティアできていた子
です。この4月からの就職先が遠
方と決まり、嬉しいやら悲しいや
ら…。もう1つは、この5年間鈴
蘭学園に通ってくれており、高
校進学により3月に鈴蘭学園を
卒業する子です。思い出が沢
山ある2人でした。これから先、
新天地でも、自分のペースを崩
さず、一步一步踏みしめて、羽
ばたいていって下さい。いつま
でも、いつまでも応援していま
す。頑張れ～!!



お悩みの方、ご相談ください。

自信・活力・自分らしさを取り戻すため、あなたと共に問題に向き合います。
まずは、ご相談ください。

相談専用ダイヤル TEL: 042-733-0015

電話相談事業は、神奈川県フリースペース等補助金により運営しています。